

9月の研修が終了しました

9月6日(水) 看護研修センター

新人のための医療安全 というテーマで、和歌山県立医科大学附属病院 医療安全推進部 ゼネラルリスクマネージャー 中山 美代子 講師の講義に 119名の参加があった。

「医療事故とは」という言葉の定義の説明から始まり、過去に起きた大病院における医療事故について、当時の病院の様子を交えながらの説明があった。

入院後、転倒転落など事故になる可能性が高い行動や環境を考える内容のDVDを視聴し、患者さんに意識付けをしてもらえる方法を学んだ。また、エラーパターンやアサーションのチェックをして、各自自分の傾向を知った。

講師のバイタリティあふれた熱意のある講義に受講生は惹きこまれ、メモを取りながら熱心に受講していた。

アンケート結果は、「研修のねらいに沿った学習ができた」「医療安全の制度、歴史的背景を知ることができ、さらに興味が持てた」など意欲的な意見があった。

日本看護協会の賠償責任保険制度の認知度が低かったので、今後はもっと広めていきたい。



《講義の様子》

9月12日(火) 看護研修センター

看護研究に役立つ統計学の基礎 というテーマで、京都女子大学 発達教育学部 教授 岩原 昭彦 講師の講義に 23名の参加があった。先月ビックUで行った研修の紀北版という形の研修であった。

研究の基礎的な部分の説明、データ分析やグラフの表示方法などの講義であった。今回も、自己の振り返りができるようにムービー撮影の許可があった。

アンケート結果より、「知っている内容であった」「もう少しゆっくり時間をかけて研修を受けたい」「最初の方でエクセルの使い方に時間を消費したのがもったいない。後半のカイ2乗にもっと時間をかけて欲しかった」などの意見があった。これは、受講生の背景がさまざまであるためと考えられる。来年度は、個人の希望に応じた研修を検討していきたい。



《講義の様子》

9月25日(月) 看護研修センター

急変を察知するフィジカルアセスメント というテーマで、名古屋大学大学院医学系研究科基礎・臨床看護学講座 教授 **山内 豊明** 講師の講義に155名の参加があった。

アセスメントの進め方、臨床推論に必要な判断や考え方についての講義であった。また、フィジカルアセスメントの意義を「生きていく」機能・「生きている」機能という視点で、わかりやすく説明された。

バイタルサインでは、呼吸と循環についての説明があった。病態に沿って異常呼吸音についての説明もあった。

アンケート結果より、「呼吸音のアセスメントが理解しやすかった」「活用できそう」「理論が難しかった」など様々な意見があった。



《講義の様子》

9月26日(火) 看護研修センター

モニター心電図のファーストステップ というテーマで、日本赤十字社和歌山医療センター 慢性心不全認定看護師 **和田 直子** 講師の講義に午前 89 名、午後 45 名の参加があった。

心臓の解剖生理から始まり、心電図の法則、不整脈の見方と心臓の動きについての講義があった。モニターに変化があった場合は、直ぐに患者のもとへ駆けつけることが大事であると同時に、医師へ報告するポイントと注意点も学んだ。

アンケート結果から、「難しくはあったが、これまで受けた中で一番わかりやすかった」「医師への報告についても知ることができ、今後に活かすことができそう」とねらいに沿った研修ができたと考える。



《講義の様子》

9月30日(土) 看護研修センター

外来でがん化学療法を受ける患者の看護 というテーマで、和歌山県立医科大学附属病院 がん化学療法認定看護師 **杉本 里実** 講師の講義に 35 名の参加があった。

入院治療から外来治療への社会背景、化学療法を外来で行う特徴、抗がん剤を取り扱う時の注意点、副作用とその対応方法、患者家族の心理的社会的支援など幅広い内容の講義であった。

抗がん剤による暴露予防のデモンストレーションを行った。改めて、暴露に対する意識が高まった。

休憩時間では、個人的に質問する受講生の姿が見かけられた。

アンケート結果より、「ケアに活かせる」「基本をしっかり学ぶことができた」など、今後に活用できるという意見が多かった。



《講義の様子》



《暴露予防デモンストレーションの様子》